

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	奈良県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	奈良県文化遺産地域活性化事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>■奈良県の文化遺産を活用した歴史文化体験事業(親子で行く修学旅行)《奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会》</p> <p>これにより、地域の文化遺産を活用し、地域活性化や観光振興を推進するため、子どもとその保護者を対象とした「親子で行く修学旅行」を実施し、奈良県の文化遺産及びそれに係る人々の営みに直接接する機会を設け、我が国の歴史文化への理解を深める。具体的には、旅行会社は交通機関・宿泊施設・着地コンテンツを組み合わせる旅行商品を作成。販売・集客を行い、添乗も実施。また、交通機関はツアーを作成する旅行会社に割引を付加して座席を提供する。</p> <p>■奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業《奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会(課)》</p> <p>祭りや芸能といった県指定の無形民俗文化財を中心に詳細な映像記録を残すことで、次世代継承のための基礎資料を作成し、これを一般の人々にもわかりやすい形に編集し、普及公開することで、後継者の確保、地域社会の再生を目指す。</p> <p>■歴史的建造物の保全・活用の促進に係る専門育成事業《建築士会》</p> <p>奈良県の特定地域内の地域の伝統文化を活かした住まいまちづくりから面的なまちづくりの展開を図ることを目的に、地域に根ざした歴史的建造物の掘り起こしを行い歴史的建造物の保全・活用を担う人材を育成する。</p> <p>■建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業《建築家協会》</p> <p>本事業の具体的な取り組みにより、奈良県内の文化財と成りうる貴重な文化資産の発掘と活用等の保存に向けた方向付けを行い、県民への保存・活用への理解の拡大、伝統的な技術や保全に向けたノウハウの継承、相談窓口による具体的な保全・活用の実践等、関係官庁や関係諸団体、関係技術者等の協力を得て継続的な実施に向けた体制の構築を目的とします。</p> <p>■奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業《国際協力サポーター》</p> <p>本事業は、奈良の歴史・文化遺産を活かし、海外からの観光客や在住外国人に対して、奈良の伝統的な歴史・文化の魅力を伝え、内外に情報発信し、国際交流と地域活性化に役立てるものとする。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、奈良県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <p>主な担当課、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奈良県教育委員会事務局文化財保存課：文化財の取り扱い、調査等に関する調整・指導等をおこなう。 ○奈良県観光局観光プロモーション課：観光振興に関する事業実施の調整・連携等をおこなう。 <p>事業の実施については、次の実行委員会が実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会(委員長 名草 康之) 			
7 実施計画における目標と期待される効果	別紙①のとおり		
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 9,033 千円	平成29年度申請額： 14,488 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果(定性的な効果を記載)			
<p>■奈良県の文化遺産を活用した歴史文化体験事業(親子で行く修学旅行)《観光プロモーション課》</p> <p>地域の文化遺産を活用し、地域活性化や観光振興を推進するため、子どもとその保護者を対象とした「親子で行く修学旅行」を実施し、奈良県の文化遺産及びそれに係る人々の営みに直接接する機会を設け、我が国の歴史文化への理解を深める。</p> <p>■奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業《文化財保存課》</p> <p>祭りや芸能といった県指定の無形民俗文化財を中心に詳細な映像記録を残すことで、次世代継承のための基礎資料を作成し、これを一般の人々にもわかりやすい形に編集し、普及公開することで、後継者の確保、地域社会の再生を目指す。</p> <p>■建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業《建築家協会》</p> <p>建築文化財や建築文化遺産に関わる各団体が個々に行っている、文化財や文化遺産関連の保存と活用に関する事業を包括した事業体制を整備することにより、官民協働での一元化した情報の共有や無駄なく効果のある事業展開が可能となる。</p> <p>■奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業《国際協力サポーター》</p> <p>海外からの観光客や在住外国人に対して、奈良の伝統的な歴史・文化の魅力を伝えることのできる人材育成に加え、奈良の魅力を世界に向け情報発信することができる。また、観光の活性化と県内各所の国際交流による国際化と地域活性化を可能とする。</p>			
10 その他事業(自主財源、民間団体、他省庁等からの補助(支援)を予定している事業など)			
事業概要:	■奈良県の文化遺産を活用した歴史文化体験事業(親子で行く修学旅行)《観光プロモーション課》 旅行会社は交通機関・宿泊施設・着地コンテンツを組み合わせる旅行商品を作成。販売・集客を行い、添乗も実施。また、交通機関はツアーを作成する旅行会社に割引を付加して座席を提供		
事業概要:	■奈良県の無形民俗文化財次世代継承のための総合活性化事業《文化財保存課》 29年度には無形民俗文化財継承のために各保護団体の連絡協議会を結成し、ワークショップや講演会等を実施する。また29～31年度には古い映像資料のデジタルアーカイブ化と公開、活用を推進する。		
事業概要:	■建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業《建築家協会》 セミナーや講演会、人材育成などの講師は、関連団体との協働により開催する。講師料の予算が不足の場合は自主財源や地域づくり団体協議会等の助成団体からの助成を財源とする。		
事業概要:	■奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業《国際協力サポーター》 セミナーや講演会、人材育成などの講師は、関連団体との協働により開催する。講師料の予算が不足の場合は自主財源や地域づくり団体協議会等の助成団体からの助成を財源とする。		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
なし			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	奈良県教育委員会事務局文化財保存課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	首都圏からの宿泊観光客数			関連事業:	①	
目標値 1 :	平成 29 年度 87 万人 ⇒ 平成 33 年度 99 万人					
設定根拠 1 :	平成27年～28年への首都圏からの宿泊観光客数の伸び率1.04%を参考として、毎年度伸び率1.04%と設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
万人						
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	事業完了後の住民アンケート			関連事業:	②③	
目標値 2 :	平成 29 年度 75 (%) ⇒ 平成 33 年度 85 (%)					
設定根拠 2 :	住民アンケートを実施し、地域への愛情・誇りを感じる住民の数を測定。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
%						
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	事業完了後の参加者アンケート			関連事業:	④⑤⑥⑦⑧⑨	
目標値 3 :	平成 29 年度 75 (%) ⇒ 平成 33 年度 85 (%)					
設定根拠 3 :	住民アンケートを実施し、地域への愛情・誇りを感じる住民の数を測定。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
%						

事業④：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	パネル展の開催、配布資料の作成 歴史的建造物の活用事例等のパネルを作成し、公共の場での展示による情報発信や、文化遺産の保全と活用提案のシステムをパンフレットとしてまとめ、一般に向け配布する。		
評価指標区分：	・その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	パネル展閲覧者へのアンケート、評価値の平均		
目標値：	平成 29 年度	60 %	⇒ 平成 33 年度 100 %
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
事業⑤：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	文化財建造物等を保存・修理・維持・活用していくために、関係する全般的な知識を身につけた技術者を養成するための講座を開催する。建築士はもとより一般にも学ぶ機会を設け、現地見学会及び講習を組み合わせ修復塾現地講習として開催し、修了者を含め社会貢献の機会を設ける。		
評価指標区分：	・ヘリテージマネージャー育成講座修了者の後年度活動者数	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	修復塾修了者による建築文化遺産関連の活動者数		
目標値：	平成 28 年度	5 人	⇒ 平成 33 年度 5 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
事業⑥：	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業	実施団体：	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	(1) 文化遺産セミナーの開催：建築物等文化遺産の保存及び景観保存に向けての啓発事業として、登録有形文化財についての情報発信をはじめ、保存・利活用事例の紹介、伝統的技術や防災を含む新しい技術の紹介、利活用や維持管理にむけた方策の紹介等のセミナーとして開催する。 (2) 相談窓口の設置：修理・改修・利活用に関して一般市民が気軽に相談できる窓口を設置する。		
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）におけるソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	建築文化遺産の継承と保全・活用について、住民の認識度合（参加者数、協力団体数）		
目標値：	平成 28 年度	20 人	⇒ 平成 33 年度 20 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度

事業⑦:	建築物等の文化遺産の継承と保全・活用の体制づくり事業	実施団体:	公益社団法人日本建築家協会近畿支部奈良地域会			
事業区分:	記録作成	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要:	建築物等の文化財、文化遺産に関する文献、図面等のアーカイブスについての記録を行う。 具体的には、武田五一と共に活動した岩崎平太郎の直筆の設計図をはじめ奈良県の建築文化に貢献した建築家の設計図が個人の所有物として保存されているが、文化財としての価値があるものもあり、現存している存在を記録し、所在を明確にする作業を行う。					
評価指標区分:	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	アーカイブスを活用した取組数					
目標値:	平成 28 年度		1 件	⇒	平成 33 年度 1 件	
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
事業⑧:	奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業	実施団体:	(特活) 奈良国際協力サポーター			
事業区分:	人材育成	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要:	<奈良の歴史・文化を外国人に伝えるガイドの人材育成> ウォークや講演会、翻訳事業を通じ、記紀・万葉の内容をはじめ、奈良の歴史・文化遺産を海外の方々に情報発信できる人材育成を行う					
評価指標区分:	・ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	各年度の外国語ガイド講座修了者の活動者数					
目標値:	平成 28 年度		5 人	⇒	平成 33 年度 5 人	
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	
事業⑨:	奈良の歴史・文化遺産を活かした国際交流と地域活性化事業	実施団体:	(特活) 奈良国際協力サポーター			
事業区分:	普及啓発	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要:	<記紀・万葉ゆかりの地を巡るウォークの開催> 海外観光客や在住外国人や市民を対象として、奈良県内にある豊富な、記紀・万葉の名所を巡るウォークを開催する。案内は、通訳のガイドの同行と翻訳資料により開催する。 <記紀・万葉に関する講演会の開催> 海外観光客や在住外国人や市民を対象として、記紀・万葉に関する講演会を開催する。講師の話と同時に通訳と翻訳資料により、わかりやすく解説する。					
評価指標区分:	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標:	イベント参加者の評価値の平均					
目標値:	平成 28 年度		60 %	⇒	平成 33 年度 100 %	
進捗状況:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	